

7月



しゅうかく直前

7月中ごろから出荷がはじまります。

7月～10月



選果作業

サイズや色によって選別をしてから、はこにつめます。



出荷

トラックで市場へ年間およそ2400トン運ばれます。



店先にトマトがならべられ売られます。



「ハチを使って受粉しているなんてすごいね。」



「機械ではこにつめていくんだね。」

1962年（昭和37年）に南郷地区で14名の人が「トマト研究会」をつくりました。そして、サッカーコートより少しせまい広さの土地でトマトのさいばいに取り組んだのが南郷トマトの始まりでした。だんだんとまわりの村や町でもさいばいされるようになり、加工品も作られるようになりました。ゆき由紀さんたちは、トマトを使ったみやげものについて調べてみることにしました。



仮植（かしよく）

本植えの前に一時的にどこかに植えておくこと。

定植

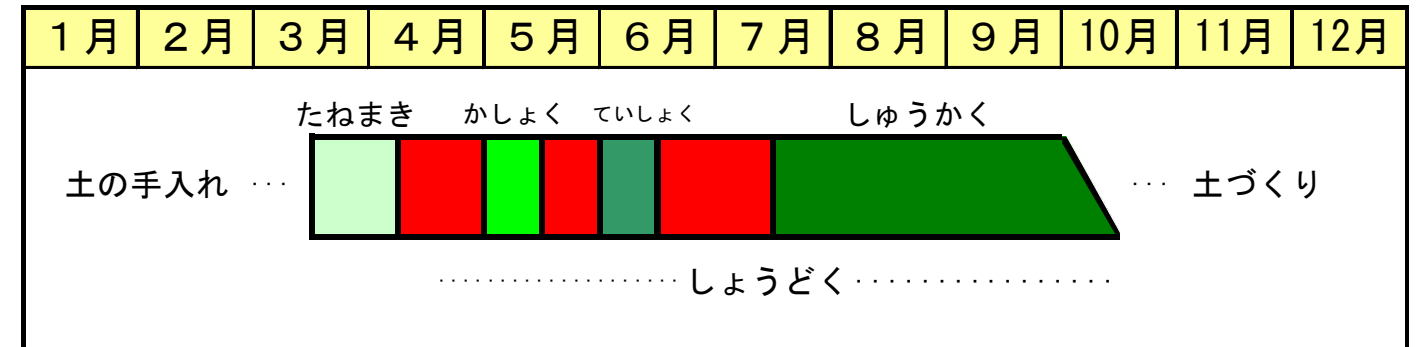
なえを、なえどこからうつして、田畑に本式に植えること。

いろいろなトマトの加工品

トマトを使ってどのような加工品が作られているのでしょうか。

ゆき由紀さんたちは、農家の人たちはトマトを生産できない時は、どのようにしているのかを調べてまとめてみました。

トマトづくりこよみ



予冷庫をそなえた新選果場



トマト畑の方の話

平成16年に新しいトマトの選果場ができました。この建物は雪を利用した予冷庫をそなえています。そのため、たくさんトマトが収穫できた時に長い間とっておくことができるようになりました。また、トマトを使った加工品としてトマトジュースやトマトカレーを作っています。農家の人たちが育てたトマトをもっと多くの人にあげてほしいと思います。冬になると作物ができないのでスキー場で働く人もいます。



新しい選果場の内部。冷ぼう用のダクト